

パナマ内政・外交(2018年9月定期報告)

【ポイント】

○2019年総選挙に向けたPRD党大統領候補に、コルティソ元農牧開発大臣が選出された。

○日本、イスラエル、カタール及びカナダの新大使は、バレーラ大統領に信任状を捧呈した。

○バレーラ大統領は、第73回国連総会に出席に併せ、クロアチア、キューバ、日本、モロッコ及び中国との間で二国間会談を実施した。

【本文】

●内政

1 閣僚・政府高官人事

(1) 1日付で、マルティス社会保険庁長官が辞任した。後任には、医師で予防健康調査局役員のバラリニ氏が長官代行として就任した。

(2) 14日付で、バレーラ大統領は、チンテージャ経済財務大臣代行を、正式に経済財務大臣として任命した。

2 PRD党内予備選挙

(1) 大統領候補

ア 16日、PRD党は、2019年大統領選挙に向け、党内統一候補者選出のための予備選挙を行った。大統領候補には、コルティソ元農牧開発大臣が得票率66.49%(約21万2千票)を獲得し選出された。

イ コルティソ候補の当選に関し、当地主要各紙は、ロビンソン同党総裁及びペドロ・ミゲル幹事長を始めとした党内執行部の支持を幅広く獲得したことを主な勝因として挙げている。

(2) パナマ市長候補

パナマ市長ポストには、ホセ・ルイス・ファブレガ候補が約50.21%(約2万3千票)を獲得し当選した(※2014年に引き続き2回目)。対抗馬として有力視されていたキビアン・パナイ候補は約41.17%(約1万9千票)であった。

(3) 議会議員候補

議会議員ポストには、現在PRD党が議会で有する26議席の内、来年の総選挙での再選を目指して立候補している19名の議員のうち、ロビンソン同党総裁を始めとした14名が党内統一候補として選出された。

●外交

1 ドウケ・コロンビア大統領のパナマ訪問

(1) 10日、バレーラ大統領は、就任後初のパナマ公式訪問をしたドウケ・コロンビア大統領と首脳会談を行った。同会談では、安全保障、貿易、観光、電力相互連結、人道的「ハブ」、移民及びニカラグアとベネズエラ情勢が取り上げられた。

(2) バレーラ大統領は、同会談を通し、安全保障、貿易及び政治分野において更に緊密な関係を築き、二国間アジェンダにおいて重要な進展を得られた旨強調した。

2 韓国・北朝鮮首脳会談

21日、パナマ外務省は、18～19日に行われた第3回韓国・北朝鮮首脳会談における両国の平和に向けた和解への意向、朝鮮半島の繁栄及び国際社会の平和的共生を表すピョンヤン共同宣言への署名等の達成事項を称えると共に、朝鮮半島の平和及び安定を達成するため、対話及び外交を通じたあらゆる努力を支持する旨の声明を発出した。

3 インドとの第1回政策協議の実施

(1) 13日、インカピエ外務次官はインドを訪問し、プレエティ・サラン印外務次官との間で第1回政策協議を実施した。

(2) パナマ側は、観光分野において、最近両国間で合意された押印型査証の適用及び入国簡素化について確認し、インド国民のパナマ訪問を促進することに関心を示した。また、金融面では、両国とも署名する多国間協定に基き、二国間での租税情報交換をインド側に要請した。インド側からは、パナマがUNIDOと協働し進める「薬剤製造のハブ」機能強化への関心が挙げられた。

4 新大使の信任状捧呈

(1) 20日、バレーラ大統領は、サイン・マロ副大統領兼外務大臣の同席のもと、イスラエル、日本、カタール及びカナダの新大使を迎え、信任状を受領した。

(2) 同大統領と各国新大使は、アジア、中東及び米州が直面する安全保障、安定及び平和への脅威等の問題に対して、対話、同意及び交渉が適切な手段であることで一致した。

(3) 二国間関係では、パナマ政府側は、メトロ2号線及び3号線に代表される、現政権が推し進めるインフラ事業にこれらの国の企業が参入することへの関心を示した。また、テロ及び国境を越えた犯罪に直面するラ米地域の安全保

障を強化する協力関係、そして農業等パナマの持続的発展に貢献する協定の具体化の重要性について提起した。

5 第73回国連総会

(1) 25日、バレーラ大統領は、サイン・マロ副大統領兼外務大臣同席のもと、クロアチア、キューバ、日本、モロッコ及び中国との間で二国間会談を実施した。

ア クロアチア：コリンダ・グラバル＝キタロヴィッチ・クロアチア大統領との二国間会談の機会に、両国首脳は、サイン・マロ副大統領兼外相及びマリヤ・ペイチノヴィッチ・ブリッチ・クロアチア外相による二国間政策協議に関する覚書への署名に立ち会った。

イ キューバ：バレーラ大統領は、ミゲル・ディアス＝カネル・キューバ国家評議会議長と、貿易関係強化の重要性において一致すると共に、パナマ企業がキューバとの貿易促進の機会を追求するため、パナマのハバナ国際フォーラムへの参加を表明した。

ウ 日本：4回目となる日本の安倍首相との会談において、二国間関係における日本側の関心及びメトロ3号線事業に関連する合意によって強化された緊密な戦略的同盟関係 (*estrecha alianza estrategica*) を確認した。

エ モロッコ：サアデディン・オスマニ首相との二国間会談では、近日中にも二国間関係の緊密化のため二国間政策協議を開催することで合意した。

オ 中国：王毅中国外交部長との会談では、中国・パナマの関係性の順調な進展を共有すると共に、広州及び香港への領事館設置の承認に謝意を表明した。

(2) バレーラ大統領の一般討論演説

ア 26日午前、バレーラ大統領は一般討論演説を行った。

イ 同大統領は、教育制度改革、様々なインフラ計画、貧困層の減少及びフアルコン・ポリシーを始めとした、この4年間の現政権の成果に言及すると共に、ベネズエラ及びニカラグアでの人道危機、麻薬、民主主義及び政治の透明性等ラ米域内における諸問題に係るパナマ政府の対応及び取り組みについて取り上げた。

(了)